

芳賀赤十字病院 平成26年勤務医負担軽減計画

目標

当院では、従来より勤務医の勤務状況を把握し、改善すべき点については各診療科の責任者の指導により対応してきた。勤務医の負担軽減を進めるためには、コメディカルを含めた各診療部の協力体制が必要であることから委員会の設置を推進していく。

分野	地域医療機関との連携				
	現状	平成27年までの目標	目標達成のために必要な手順	達成度のチェック	
			平成26年6月	平成27年3月	
脳卒中地域連携のクリティカルパスの運用 平成23年度 48名 平成24年度 76名 平成25年度 88名 平成26年度 77名(12月まで)	継続的な運用	県内統一パスの周知 医師のムンテラ後に連携担当者が 具体的説明を行い回復期リハビリ 病院と調整を行う	85%	90%	90%
糖尿病連携パスの運用開始 平成22年度に準備完了、3名の運用開始 平成24年度9名 平成25年度2名 平成26年度0名(12月まで)	連携施設と利用者の拡大	芳賀郡市内の糖尿病治療に関わる 医師へのパスの伝達 教育入院の方法(日数)検討 5日間と10日間の入院期間を選択 可能とした	50%	40%	50%
がん地域連携パスの導入	運用開始と利用者の拡大	院内体制の整備 連携先である自治医大附属病院と の連携強化	10%	10%	10%
高額医療機器の共同利用 平成25年度367件 H26.4~12 301件	継続的な運用と利用の拡大	院外関係機関への周知 院内体制の整備	80%	80%	80%
救急患者受入の外部医療機関及び内部関係 部署との連携調整 平成25年度救急車受入件数3579件	お断り件数の削減	受け入れ体制の改善 救急部との連携強化	70%	70%	70%

現状	平成27年までの目標	目標達成のために必要な手順	達成度のチェック		備考(27年度)
			平成26年6月	平成27年3月	
診療の事前予約での連絡調整(当院の診療及び他院診療への予約)、転院調整 平成26年度(12月まで) 紹介率70.5% 逆紹介率56.2%	紹介率60%/逆紹介率30%以上の維持	受け入れ体制の改善 各診療科との連携強化 返書管理の改善(院内情報システムの活用)	80%	80%	80%
紹介状の事務処理と返書の郵送 文書のスキャナー、整理、保管を含めた管理と、返書の郵送	継続的な運用	医師事務補助者への通知 各診療科と連携強化	75%	70%	75%
地域の医療機関を登録医として連携 登録医数:医科96、歯科58 地域医療支援病院 平成24年4月27日付で承認された	運用開始と利用者の拡大	院内体制の整備 連携先である自治医大附属病院との連携強化	65%	65%	65%
退院先の紹介、患者・家族との相談 平成25年度(4月~2月) 療養型病院への転院146件、施設入所27件、自宅に帰るに当たっての準備等の相談173件、院外関係機関との調整2567件	迅速、安心な退院調整の実施	院内及び院外関係機関との連携を密にし、情報を正確に共有 新たな連携先の開拓	75%	70%	75%
分野	検査業務				
外来診療前検査を充実させることにより、診断を迅速化させ、再診の回数を減らすように多くの臨床検査の迅速化を図っている。	外来診療前検査・至急報告項目をさらに増やし、診断支援を充実させる。	臨床側から必要な検査項目を指示していただき、その項目について対応する。	70%	90%	90%
臨床検査技師が極異常(パニック)値や前回値チェックを十分行い、医師が検査結果を確認する前に、すぐ判断を要する結果について、医師にPHSで連絡して迅速な判断の一助を担っている。	緊急連絡を要する結果の判定基準を厳格化し、不必要な連絡回数を減少させることと、医師が報告を簡単に受け取れるような方法(メール機能使用等)をシステム化し導入したい。	PHSを使用した連絡報告を確立していく。	70%	95%	95%

睡眠時無呼吸症候群の簡易検査、24時間ホルター心電図、24時間血圧測定等の解析レポートを充実させて医師が判断しやすいようにしている。	レポートの迅速化をさらにめざす。	レポート作成を迅速化し、フォーマットを見直して改善を図る。	70%	90%	90%
分野	栄養課				
栄養指導のオーダー入力の軽減のため管理栄養士による代行入力を行っている。	実施件数の増加（特別食患者の約50%）。	クリニカルパスに合わせて、指導実施時期を決めていく。（入院時及び退院時の2回、指導を実施）	78%	95%	95%
一般食（常食）の内容や形態について、栄養管理実施計画の説明時に患者と相談し、変更がある場合は医師に確認している。	引き続き実施する。	入院計画書作成時、病棟訪問時に患者と関わる。 週1回病棟カンファレンスに参加し、情報を得る。	78%	95%	95%
特別食の食事内容や形態について変更の必要がある場合は、メールで医師に提案している。	栄養サポートチーム（NST）の多職種で検討して医師に提案し、継続フォローし、再評価しながら患者の栄養改善とQOLの向上に努める。	NST 専従管理栄養士を中心とし、専任医師・薬剤師・看護師、他の職種で回診を行い、栄養障害を早期に発見し、改善方法を担当医に提案する。	80%	90%	90%
		NST スタッフは栄養管理に関する専門知識を習得するために勉強会や研修会に参加する。	80%	90%	90%
経腸栄養療法について、医師から相談があった場合に、種類や量について提案している。	NST 回診や栄養カンファレンスで、モニタリングを行い、種類や量、投与方法など変更や注意が必要な場合は、速やかに担当医に提案する。	NST スタッフや看護師に、経腸栄養剤や投与方法などについての勉強会を実施し、知識を深める。	80%	80%	80%
		ICT と連携し、感染予防などの知識を深める。	70%	70%	70%

分野	リハビリ				
現状	平成 27 年度までの目標	目標達成のために必要な手順	達成度のチェック		備考(27 年度)
			平成 26 年 6 月	平成 27 年 3 月	
診療評価を充実させることにより医師の診断書作成のサポートを図る	レポートの迅速化をさらにめざす	診療評価の充実		70%	80%
分野	医療機器管理				
主な医療機器の効率的使用と点検のための中央管理	医療機器を安全に使用するために機種統一による使用法を一元化する。	医療機器の計画的購入と、使用法に関する定期的勉強会を開催する。	80%	90%	90%
人工透析・心臓カテーテル検査等における機器の操作・管理	担当医師のオードダ全てに対応できる様にする。 業者立会なしで業務が成り立つ様にする。	透析機器安全管理委員会を設置し、毎月の問題点を報告し検討する。 血液浄化及び心臓カテーテル、ペースメーカーについて勉強会を実施する。	90%	90%	90%
分野	薬剤業務				
現状	平成 27 年までの目標	目標達成のために必要な手順	達成度のチェック		備考 (27 年度)
			平成 26 年 6 月	平成 27 年 3 月	
薬剤量、使用量、相互作用、配合変化などの処方内容の確認	入院、外来問わず処方、注射について確認作業ができる様に体制づくりする	処方時、服薬指導時、病棟訪問時等に情報の提供を速やかに行う。PHS、メールなどの利用も活用する。	80%	80%	85%
抗がん剤の無菌製剤処理、抗がん剤の治療計画書の確認	外来化学療法における患者への説明の実施、提供できる様にする。	外来化学療法室への薬剤師派遣、カンファレンス等による情報の共有体制を構築する	30%	30%	40%
入院患者の持参薬の確認（文書管理への記載） 病棟患者の服薬指導	持参薬のカルテへの代行入力 持参薬の確認後による服薬の提案	担当病棟への薬剤師の配置 カンファレンスへの参加	60%	65%	70%

	入院患者の医薬品管理 入院患者の退院指導 入院患者への副作用チェック 薬剤に関する医療スタッフからの相談に応じる体制				
新規採用薬剤情報、添付文書改訂情報、副作用情報など医薬品情報集約と医師への提供	各科医局に資料を配布し、情報提供する	院内ネットワークを利用し、院内提供する。 資料作成し、紙出力し配布する	90%	90%	90%
<b>【処方の代行入力】</b> ・経過措置薬品を新規薬品へ処方登録 ・巡回診療の処方箋、システムダウン時の紙処方箋、セットオーダの修正 ・疑義照会による用法容量の変更 ・調剤薬局からの問い合わせに対応による規定の規格変更・院内採用薬による代替え薬錠剤の一包化・後発製品から先発薬品、添付文書上好ましい用法	NST 回診における対象者リストを作成し、医薬品の情報提供を行う	担当病棟への薬剤師の配置 カンファレンスへの参加	50%	60%	60%
	代行権限の拡大し、業務推進を図る	代行権限付与により、変更等の処理可能になる 電子カルテを有効に活用する	80%	80%	80%
分野	医師事務作業補助者業務				
現状	平成27年までの目標	目標達成のために必要な手順	達成度のチェック		備考(27年度)
			平成26年6月	平成27年3月	
現在は、内科・整形外科・産婦人科・小児科・外科・泌尿器科・耳鼻咽喉科・麻酔科に配置している	医師事務作業補助者の配置の拡大及び増員を図る 全診療科に対応した職員の配置をする	各診療科、医師等の業務状況及び医師事務作業補助者の必要性を把握する 定期的な勉強会を実施する 院外研修会に参加する	65%	70%	70%

各配置診療科の担当者が書類作成補助を行っている	全診療科の生命保険診断書及びその他の定型書類、紹介状返事の作成補助ができるようにする	定型書類を作成できるよう勉強会を行う。また、各書類のマニュアルも作成する	75%	80%	85%
病院職員が医師事務作業補助者の業務内容を十分に把握していない	病院職員に対して医師事務作業補助者の業務を周知し、理解を深め、活用の幅を広げる	病院職員に対して医師事務作業補助者の役割・業務について定期的に研修を行う	85%	80%	85%
分野	看護部				
現状	平成27年までの目標	目標達成のために必要な手順	達成度のチェック		備考(27年度)
			平成26年6月	平成27年3月	
退院時・転出時転院時における退院処方等の受け取り	チーム医療の推進により患者様の治療・薬剤等に関する情報及び物流の一元化を図る	業務分担マニュアルの再整備と接遇研修の実施	80%	100%	
業務分担マニュアル(別紙)によるレントゲンフィルム等の搬送			80%	100%	
病棟窓口における患者、家族・来院者等の対応			80%	90%	90%
各部署における書類等の受け渡し			80%	90%	90%
分野	処遇改善				
交代制勤務導入の検討 当直回数月3回	交代制勤務の導入検討	勤務医師の募集			
当直翌日の通常勤務に係る配慮	非常勤医師の活用	非常勤医師の活用			